



学校だより 3月号

横浜市立日吉南小学校

令和6年3月1日

感謝

校長 山中 真紀子

2月は、インフルエンザが流行し多くのクラスが学級閉鎖となり、残り少ないクラスでの生活ができなくなることのさみしさが聞かれました。今年度も残り1か月となりました。子どもたちが元気に登校し、残りの学校生活を満喫してくれることを願っています。



主体的に取り組む子どもたちに

2月22日に、日吉台・日吉南・矢上・箕輪小学校学校運営協議会が行われました。今年度の取り組み、来年度の方向性、新しい教育観における子どもの学びの在り方について意見交換をしました。「待つ力、自分で見つける力をつけていきたい」「主体的に学ぶ、興味を深めていく手段とは」「自分で考えて、やることを見つかる子ども」「地域の方が学校に連絡するときは、保護者へ伝えてほしい時、橋渡しを学校が」「地域との交流が減っている」「これからの



子どもはSNSの中で生きていくことになる。その中でいけないことがわかり人間性を高めていくことが必要」「タプレッ

ト端末の有効的な使い方を、使うことで引き出されるものもある」「主体的に取り組む宿題の在り方、自主学習でつきたい子どもの力」が話題になりました。



私自身にとっては、子どもたちの発達段階に合わせて宿題の在り方を考える機会となりました。一律に同じことをすることが力になっているのか。そもそも宿題は必要なものなのか。それは誰にとってか。子どもたちが抱える課題は様々で、生活スタイルも違います。「漢字は覚えられればいい。自分の興味のあることに時間を使ってよい。自分で考え、自分で行う力をつけたい。」そう考えていくと、宿題の在り方や私たちが思っている宿題に対する固定概念を変えていくことが必要なのかもしれない。



6年生ありがとう集会

2月26日の「6年生ありがとう集会」では、各学年からお祝いメッセージや歌が工夫され発表されました。「あこがれ」「優しい」「あ



りがとう」の言葉がどの学年からも出てきて、6年生がこの学校になくってはならない存在であることを再確認する時間となりました。また、会をリードする5年生がたのもしく見え、6年生となって活躍する姿が目に見え、校内が6年生をお祝いする飾りつけにあふれ、それを見る6年生が

「すごいな、大変だったんだろうな。僕たちのために、ありがたい。うれしい。」

と話していました。また

「ひよみなリーダーとしての役割をもちながら、下級生のために過ごしたことがうれしい。」

と言っていた6年生もいます。たてわり活動の中で、確実に子どもたちは成長しています。毎年この時期になると、本校が大切にしているものが子どもたちにもしっかり伝わっていることをとても嬉しく感じます。



3月4日には、今年度最後の懇談会と学校説明会を予定しております。忙しい中ではありますが多くの方の参加をお待ちしています。

保護者の皆様、地域の皆様、今年度も学校を支えていただきましたこと感謝申し上げます。



令和6年度も引き続き、体験的な活動や主体的・協働的に学ぶ教育活動を充実させてまいります。

「学校だからこそできるつながりを大切に」
「保護者、地域の皆様とのつながりを大切に」
取り組んでまいります。来年度もよろしくお願いいたします。

日吉台・日吉南・矢上・箕輪小学校

学校運営協議会 報告

主体的に学ぶ中で身に付けるべき次代を切り拓く資質・能力の共有及び、学校にあった持続可能な形の柔軟な教育課程の編成・実施・評価・改善、「新しい教育観における子どもの学びの在り方」について意見をいただいた。

- ・主体的に学ぶ子どもの姿：宿題（家庭学習）の在り方等
- ・今の子どもにあった柔軟な教育課程：午前5時間40分授業
- ・持続可能な学校：ICTの活用や働き方改革
- ・地域学校協働本部との連携による一体的な活動：ボランティアの活用、地域とのつながり再考、関わりを通して身に付ける力
- ・特別支援：特別支援ルームの運営、個別最適な学び

「今の子ども」にフォーカスして、知識をただ覚えさせられるのではない、子どもが自ら獲得する、身に付けるべき資質・能力が見えてきた。

時代を捉えた長期的な人間形成の視点が見えてきて、学校や地域、家庭での関わりや連携について考えを深めることができた。

児童の育成について、今後の学校運営協議会として議論を深めていく方向性が見えてきた。

